

ユースフォーラム サマリー  
第16回日中韓三ヵ国環境大臣会合 (TEMM16)  
韓国大邱EXCO  
2014年4月28日

我々、韓国、中国、そして日本からのユース代表者は、第16回日中韓三ヵ国環境大臣会合のユースフォーラムのため会合を行った。今年のユースフォーラムは「若者による持続可能性への抱負：創造的、自発的であることを目指して」というテーマの下で、我々若者が創造的、自発的に持続可能性のある将来に向けてどのような貢献ができるか意見交換を行った。

まず、フォーラムでの各発表、グループディスカッションを通じて、我々が今回共有した経験と事例は三ヵ国の若者にとって非常に価値のあるものであったことは皆が感じたことであった。

中国からの若者代表は、大学生のグループが地方の茶農家と協働して行なったFengGangフェアトレードプロジェクトについて発表を行った。本事例では、生活基準の改善を念頭に置きながら、中国の若者がどのように環境の学術的知見をローカルコミュニティに適用していったか詳しく述べられた。

日本の豊岡市の事例では、台風や洪水といった自然災害の被害を減らすため生徒たちが自発的に行った「水田プロジェクト」が紹介された。生物多様性と農業の確立を目指したこのプロジェクト事例は、ローカルコミュニティに若者が協力していくことの重要性について改めて我々に気づかせてくれた。また、若者の小さな一歩が、我々の地域の持続可能性をいかに高めることになるのか示してくれた。

韓国の代表者からは、彼ら韓国の若者がどのように創造力を活かして持続可能性への貢献をしているのか示された。太陽光発電ができるごみ箱を開発した企業「Ecubelabs」と、仮想のゲームを通じて本当の樹木の植林を行うスマートフォンのゲーム開発会社「the Tree Planet」の取り組みが紹介された。両社とも若者の創造的なアイデアを活用し、政府や企業、NGOと協力体制を築いた。

グループディスカッションでは、持続可能性に向けた課題・挑戦が何かを議論し、より持続可能性のある将来に向けた共通のビジョンを描くことに取り組んだ。また我々は、持続可能な社会を迫るうえで、創造力のある若者が積極的に参画していくことが重要であるとの認識を共有した。

ユースフォーラムの結果を踏まえ、我々三ヵ国の若者の代表者は、韓国、中国そして日本の環境教育の重要性を特に強調したいと考えている。知識や創造性を持続可能性に役立てることができ、環境に配慮できる市民を育てるため、小学校から大学レベル、更にそれ以上まで、環境教育の強化を提案する。

また、政府やビジネスやNGOに対しては、若者との協力体制を築いて、彼らの創造的なアイデア、自発性をさらに喚起させることを提案する。実現可能な案の一つとして、持続

可能性に向け創造的な取り組みを最初に行った若者を表彰する制度を設けることが挙げられる。

また、三カ国の若者が創造的アイデアや経験を意見交換できるためのネットワークもしくはプラットフォームの機会を提供することを政府に提案したい。

代表者全員、各人の経験を共有し、互いに学びを得ることができ、TEMM16には素晴らしい機会を与えていただいたと感謝している。このユースフォーラムの経験と熱意を更に我々各国の友人や同僚に広げていきたい。